

平成16年3月期 第1四半期業績の概要（連結）

平成15年 7月18日

上場会社名 東洋機械金属株式会社

(コード番号 6210 大証第2部)

(URL <http://www.toyo-mm.co.jp>)

代表者 役職名 取締役社長

氏名 保田 勲

問合せ先責任者役職名 取締役管理本部長

氏名 二見 泰博

(TEL (078) 942 - 2345)

1. 四半期業績の概要の作成等に係る事項

- ①売上高の会計処理の方法の最近会計年度における認識の方法との相違の有無 : 無
- ②公認会計士又は監査法人による関与の有無 : 無

2. 16年3月期第1四半期の業績概況（平成15年4月1日～平成15年6月30日）

(1) 経営成績(連結)の状況

(注)記載金額は百万円未満切り捨て表示

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
16年3月期第1四半期	5,432	-	488	-	498	-
15年3月期第1四半期	-	-	-	-	-	-
(参考) 15年3月期	16,143	56.4	515	-	583	-

	当期(四半期)純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	円	銭
16年3月期第1四半期	293	-	21.69	
15年3月期第1四半期	-	-	-	
(参考) 15年3月期	726	-	55.84	

(注)1. 売上高、営業利益、経常利益、当期純利益におけるパーセント表示は、対前年同四半期比増減率

2. 当該四半期より四半期業績の開示を行っており、対前年同四半期実績及び増減率については記載していません。

(2) 当該四半期の概要

当該四半期のわが国経済は、株式市況の持ち直しや企業収益の改善など一部に回復基調が見られたものの、依然として厳しい雇用情勢や個人消費の低迷などによる先行き不透明感から引き続き景気は低調に推移いたしました。しかしながら、当社の関連する業界においては、国内は他の業種が低迷するなかで、自動車関連が堅調に推移し、輸出も生産移転が進む中国を中心にIT関連業界等の旺盛な需要に支えられ、好調に推移いたしました。このような情勢の中で、当社は射出成形機及びびくカスタムの順調な受注の伸びに加え、デスク専用機の急速な伸長により、売上高は5,432百万円となりました。

また、損益につきましては、受注売上的大幅な増加による操業度利益及び厳しい市場価格に対応するべく行ってきた原価低減活動が寄与し、経常利益は498百万円、当期純利益は293百万円となりました。

(3) 当該四半期において当社の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象

該当する事象はありません。

3. 16年3月期の連結業績予想（平成15年4月1日～平成16年3月31日）

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
中間期	10,000	775	470	34.75
通期	19,000	1,150	700	49.99

(参考)当初(平成15年4月23日)発表

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
中間期	8,650	350	210	16.67
通期	17,500	720	430	32.22

[業績予想に関する定性的情報等]

当社の関連する業界の好調及び営業拠点強化や新製品投入等が効を奏し、射出成形機及びびくカスタムの順調な受注の伸びに加え、デスク専用機の急速な伸長により前回決算発表予想時よりも売上が大幅に伸びる見込みであります。また損益もこの大幅な売上増加による操業度効果及び厳しい市場価格に対応するべく行ってきた原価低減活動が寄与し、前回決算発表予想を大幅に上回る見込みであります。

(注) 上記の業績予想は発表日現在における将来の見通し、計画の前提となる予測が含まれております。実際の業績は、今後の様々な不確定要因によって記載と異なる可能性があります。